



京大広報

No. 583

2003. 10

目次

<大学の動き>

- 次期総長候補者に
尾池和夫教授（副学長）を選出……………1552
- 平成15年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択結果について……………1553
- 全学教育シンポジウム「京都大学における
教育の“ミニマムリクワイアメント”を
どう考えるか」の開催……………1554
- 知的財産企画室が誕生……………1554
- 博士学位授与式……………1555

<部局の動き>

- 寄附講座「探索臨床腫瘍学講座」の設置……………1556
- 工学部が平成14年度工学教育賞文部科学大臣賞
を受賞……………1557

<寸言>

- 大学改革に期待 中田一男……………1558

<随想>

- 「やましゅう」の言葉 水垣 渉……………1559

<洛書>

- 吉田から桂へ 大藪幸一郎……………1560

<話題>

- 国立七大学総合体育大会追い上げ実らず
惜しくも2位……………1561
- 近畿地区国立大学体育大会の結果……………1562
- 総合博物館夏休み学習教室を実施……………1563

<日誌>

- ……………1563

<訃報>……………1564

<公開講座>

- エネルギー科学研究科公開講座
「エネルギー科学の新展開」～新エネルギー
から宇宙へ……………1566
- 京都大学21世紀COE「物理学の多様性と
普遍性の探求拠点」第1回 市民講座「宇宙の
神秘に迫る～宇宙科学最前線～」……………1566

<お知らせ>

- 農学部創立80周年記念シンポジウム
「農業生産と食の未来」……………1567
- 第6回情報学シンポジウム
「世界のセンターオブエクセレンスを
めざして……………1568
- 総合博物館展示会のご案内……………1569
- 平成15年秋季企画展「21世紀京大の農学－
食と生命そして環境－」
特別展「ブレイクと出会った日本，その
喜ばしき日々」
平成15年度附属図書館公開企画展のご案内……………1570
- 「和算の時代－日本人の数学力をたどる－」
本部構内一桂キャンパス間連絡バスの
運行始まる……………1571
- 昼休みの「窓口」オープンについて……………1572

<編集後記>……………1572



全学教育シンポジウムを開催
－関連記事 本文 1554 ページ－

京都大学広報委員会

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

大学の動き

次期総長候補者に尾池和夫教授（副学長）を選出

現総長の任期満了（12月15日）に伴う次期総長候補者の選考が、9月26日（金）、27日（土）の両日にわたる投票を経た後、27日開催の臨時評議会において行われ、その結果、現副学長の尾池和夫教授（理学研究科地球惑星科学専攻固体地球物理学講座担当）が選出された。

総長候補者の選考は、9月26日（金）の第1次投票（郵便による投票は9月22日から）と27日（土）の第2次・第3次及び決戦投票によって行われ、開票は、評議会で選出された評議員8名の立会いのもとに行われた。

なお、任期は「総長の任期の特例に関する規程」により、総長選考基準第19条の規定にかかわらず、12月16日から平成20年9月30日までとなっている。



臨時評議会終了後記者会見する尾池和夫教授

総長候補者の選考状況

1. 選挙資格者数

第1次投票	第2次投票	第3次投票以降
2,874名	61名	1,869名

2. 被選挙資格者数 948名

3. 第1次投票結果

投票者数	投票総数	うち有効投票数	無効投票数
1,582名	3,164票	2,933票	231票

候補者氏名（五十音順）

赤岡 功（経済学部）
 荒木 光彦（工学部）
 江島 義道（総合人間学部）
 尾池 和夫（理学部）
 上林 彌彦（大学院情報学研究科）
 金田 章裕（文学部）
 笹尾 登（理学部）
 佐和 隆光（経済研究所）
 高橋 強（農学部）
 田中 紘一（医学部附属病院）
 辻 文三（工学部）
 中西 重忠（大学院生命科学研究所）
 西本 清一（工学部）
 本庶 佑（医学部）
 丸山 正樹（理学部）
 柳田 充弘（大学院生命科学研究所）

（注）総長選考基準第12条第2項ただし書の規定により、候補者は16名となったものである。

4. 第2次投票結果

投票者数	投票総数	うち有効投票数	無効投票数
58名	174票	168票	6票

候補者氏名（五十音順）

尾池 和夫 金田 章裕
 佐和 隆光 本庶 佑
 柳田 充弘

5. 第3次投票結果

投票者数	投票総数	うち有効投票数	無効投票数
996名	996票	989票	7票

候補者氏名（得票順）

尾池 和夫 本庶 佑

6. 決選投票結果

投票者数	投票総数	うち有効投票数	無効投票数
934名	934票	927票	7票

候補者氏名（得票順）

尾池 和夫(590票) 本庶 佑(337票)

7. 選考

臨時評議会は、選挙の結果に基づき、次期総長候補者として尾池和夫教授を選考し、同氏はこれを受諾した。

尾池和夫教授の略歴

生年月日 昭和15年5月31日生（63歳）
 昭和38年3月 京都大学理学部卒業
 昭和38年4月 京都大学防災研究所助手
 昭和39年6月 京都大学防災研究所附属鳥取微少地震観測所助手
 昭和40年4月 京都大学防災研究所助手
 昭和48年5月 京都大学防災研究所助教授
 昭和63年12月 京都大学理学部教授
 平成7年4月 京都大学大学院理学研究科教授（現在に至る）
 平成9年4月 京都大学大学院理学研究科長・理学部長（平成11年3月まで）
 平成13年4月 京都大学副学長（現在に至る）
 平成13年4月 京都大学体育指導センター所長（平成15年3月まで）

平成15年度「特色ある大学教育支援プログラム」採択結果について

「特色ある大学教育支援プログラム」は、文部科学省が、大学教育の改善に資する種々の取組を募り、そのうち特色ある優れたものを選定し、広く社会へ情報を提供するなど、我が国の高等教育の活性化を促進することを目的として、平成15年度から新しく始めた事業である。本年度は5つの募集テーマ例が設定され、応募はテーマ例を参考に各大学・短期大学からそれぞれ1件のみとされた。

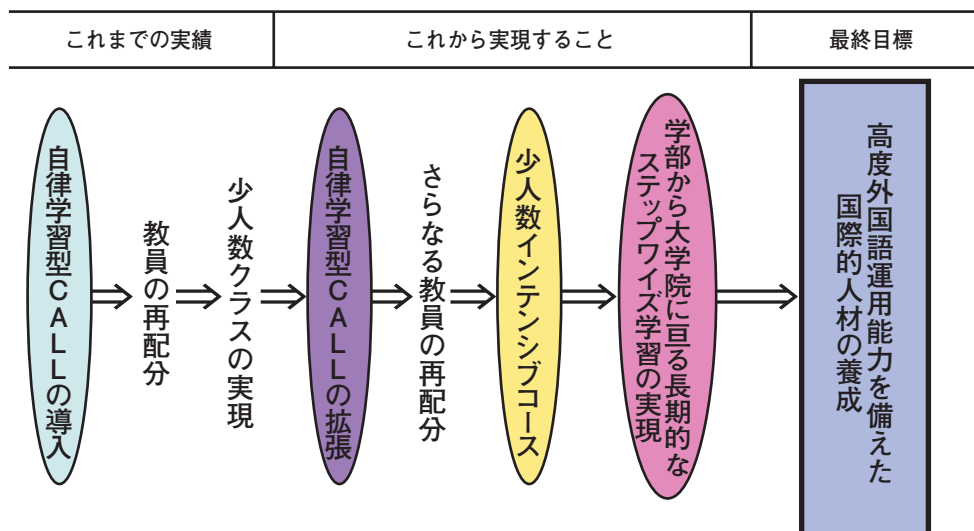
本学においては、各部局から応募のあった大学教育改善の取組について、総長を中心に鋭意検討の結果、全学共通教育の責任組織である高等教育研究開発推進機構の取組「外国語教育の再構造化－自律学習型CALLと国際的人材養成－」を選び、「主として教育方法の工夫改善に関するテーマ」として文部科学省へ提出した。

本学では、広く国際社会で活躍できる人材を養成するためには、論文作成、プレゼンテーションなどの十全な外国語運用能力と深い異世界文化理解を併せた高度な言語力（文化的言語力）を身に付けさせる教育が必須であるとの認識から、他大学に先駆けて自律学習型CALL（computer-assisted language learning）を正規の英語の履修課程に大規模に導入し、外国語教育の再構造化に取り組んでいる。自律学習型CALLは、学生がIT的時空間（サイバースペース）で自学自習する学習形態であり、これを英

語のみならず初修外国語にまで拡張するとともに次世代知的CALL技術・教材の自主開発とその利用を進めている。これらにより外国語基礎運用能力を担当する教員の負担を軽減して、対面型クラスに再配分し、学部から大学院にわたる全課程において、少人数クラスによる長期ステップワイズ学習（段階的学習）のシステムを実現する計画である。

今回、文部科学省から付託された大学基準協会において「特色ある大学教育支援プログラム実施委員会」が設置され、全国の国公私立の大学・短期大学から申請された664件について、ヒヤリングを含めた審査の結果、本学の申請を含め、以下のとおり80件の取組が採択された。

- 「主として総合的取組に関するテーマ」 …16件
 - 「主として教育課程の工夫改善に関するテーマ」 …29件
 - 「主として教育方法の工夫改善に関するテーマ」 …14件
 - 「主として学生の学習及び課外活動への支援の工夫改善に関するテーマ」 …9件
 - 「主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ」 …12件
- なお、本事業は、平成16年度以降も引き続き4年間に亘り募集される予定である。



全学教育シンポジウム「京都大学における教育の“ミニマムリクワイアメント”をどう考えるか」の開催

本学では、9月5日（金）、6日（土）の両日、兵庫県立淡路夢舞台国際会議場において、教職員240名の参加を得て、「京都大学における教育の“ミニマムリクワイアメント”をどう考えるか」をテーマとする全学教育シンポジウムを開催した。

このシンポジウムは、1泊2日の全学的討論集会の形で、本学の多数の教官が参加し、教育について全学の意見を交換することにより、今後の改善・充実に資するとともに、部局の枠を越えた教官の交流の場になることを目指して、平成8年から開催され、今回が7回目になる。

シンポジウムは、高等教育研究開発推進機構長赤岡 功教授の司会進行により、初日は長尾 真総長による挨拶及び演題「高等教育の将来と京都大学」の講演に始まり、赤岡機構長によるオリエンテーションの後、副機構長 林 哲介教授から、今回のシンポジウムのテーマに対する問題提起があり、続いて、人間・環境学研究科 高橋由典教授から、A群科



目に関する学生による授業評価の実施結果について報告があった。

その後、5グループに分かれて、林副機構長による問題提起をもとに部会討論が行われ、夕食後も引き続き、部会討論及びフリー討論が夜遅くまで展開された。

二日目は、経済学研究科 八木紀一郎教授及び高等教育研究開発推進センター 溝上慎一講師による昨年度実施された「全学共通教育に係わる授業評価（試行）」及び「京都大学1・2回生アンケート」の報告に続いて、各部会から前日の部会討論の報告があり、最後に全体討論が行われた。

今回のシンポジウムは、終始活発な議論、意見交換が行われ、盛会のうちに終了し、来年度以降も内容を一層充実したものにして、引き続き開催される予定である。

なお、このシンポジウムの内容は報告書としてまとめられ、後日、各部局及び参加者等に配付される。



知的財産企画室が誕生

知の拠点としての大学では、多くの知的資産が継承され、また創出される。こうした知的財産を管理・運用、そして活用するシステムが必要不可欠であるともいえる。

本学では、文部科学省による平成15年度大学知的

財産本部整備事業の選定校として、知的財産を戦略的に創出・取得・活用し、社会還元を促進する全学的な体制の構築を図るため、知的財産企画室が9月2日開催の部局長会議で総長裁定規程として設置され、その暫定的オフィスがベンチャー・ビジネス・

ラボラトリー内にオープンした。

室長には塩田浩平総長補佐，副室長に松重和美國際融合創造センター長，室長補佐に小林謙次郎研究協力課長が就任し，9月3日に本間政雄事務局長をはじめ，学内関係者出席のもとに，同室の看板上揚式を行った。

同室には民間から雇用された知的財産管理の専門家や弁理士等の産学官連携研究員及び研究協力課専門職員等が常駐し，知的財産ポリシーや知的財産権の取得，管理及び活用の推進方策等の具体案の検討を行い，国際融合創造センターや学内の関係部局と有機的に連携し



知的財産企画室看板上揚式
左から松重副室長，塩田室長，本間事務局長

た全学的な体制を整備する。

本学には理系，文系に亘る非常に幅広く，また先進的な学問分野の研究者が多数在籍している。法人化に伴う知的財産の機関帰属，職務発明的な取り扱いへの移行，さらには年間約400件と予測される特許取得のための人材や費用の工面，利益相反の問題など，検討すべき事項も多い。今後，全学各層の意見を産学官連携検討ワーキング・グループ等で集約し，長期的視点に立った本学としての知的財産ポリシーが年末までには策定される予定である。



知的財産企画室メンバーおよび関係者

博士学位授与式

9月29日（月）午前10時30分から，京大会館において，長尾 真総長，両副学長をはじめ，各研究科長出席のもと，博士学位授与式が挙行された。

総長から，各授与者に対し学位記（平成15年7月23日付，同15年9月24日付）が手渡された後，総長の式辞があり，午前11時35分終了した。



各研究科別内訳は次のとおりである。

総長式辞は総長室ホームページをご覧ください。

<http://www.adm.kyoto-u.ac.jp/soucho/home.htm>

研 究 科	平成15年7月			平成15年9月		
	課程博士	論文博士	計	課程博士	論文博士	計
文 学 研 究 科	5	2	7	-	-	-
教 育 学 研 究 科	-	1	1	2	-	2
法 学 研 究 科	1	1	2	-	2	2
経 済 学 研 究 科	7	3	10	2	1	3
理 学 研 究 科	5	2	7	8	2	10
医 学 研 究 科	11	3	14	7	4	11
薬 学 研 究 科	-	1	1	1	2	3
工 学 研 究 科	8	5	13	16	6	22
農 学 研 究 科	2	3	5	1	1	2
人 間 ・ 環 境 学 研 究 科	1	-	1	-	-	-
エ ネ ル ギ ー 科 学 研 究 科	1	1	2	2	-	2
ア ジ ア ・ ア フ リ カ 地 域 研 究 科	-	-	-	-	-	-
情 報 学 研 究 科	-	-	-	4	1	5
計	41	22	63	43	19	62

部局の動き

寄附講座「探索臨床腫瘍学講座」の設置

10月1日、医学研究科の寄附講座「探索臨床腫瘍学講座」が設置されることになった。

概要は次のとおりである。

- 1 部 局 名 医学研究科
- 2 名 称 探索臨床腫瘍学講座
- 3 寄 附 者 大鵬薬品工業株式会社
代表取締役 宇佐見 通
- 4 寄 附 金 額 総額250,000,000円（分割納付）
- 5 設 置 期 間 平成15年10月～平成20年9月
(5年間)
- 6 担 当 教 員
助教授相当 柳 原 一 広
助手相当 北 野 俊 行
助手相当 松 本 繁 己
助手相当 植 野 正 也
- 7 研 究 目 的
探索がん臨床の安全かつ効率的実行に必要な

臨床システムを構築し、臨床腫瘍学の発展に資する。

8 研究内容

探索医療センターと連携して、新しいがん治療法開発のための探索臨床を安全かつ効率的に実行する臨床システムに関して研究する。さらに各研究分野で開発された多数の新しいがん治療法の臨床試験をそのシステムを用いて実行に移すことにより、当該疾患の治療成績の向上・予後の改善が認められるかどうかを検証する。

9 研究課題

1. 探索がん臨床における安全、効率的ながん診療システムの開発研究
2. 新規がん治療法の臨床試験推進における効率的支援システムの研究
3. 探索がん化学療法における臨床薬理学的研究

工学部が平成14年度工学教育賞文部科学大臣賞を受賞

工学部「新工学教育プログラム実施検討委員会」は、本年9月3日開催の日本工学教育協会第51回年次大会において、文部科学大臣賞を受賞した。この賞は、日本工学教育協会が授与する工学教育賞（本年度は4件）の中の最高位のものに対して与えられる賞である。この受賞は、本委員会が中心となって進めてきた「ディベート型工学部FDシンポジウムとそれに伴う工学部教育改革」に対して与えられたものであるため、以下、その概要を紹介させていただく。

本委員会は、工学部教育の質の維持・向上のために1999年度より設置されている組織で、「ディベート型工学部FDシンポジウム」はその活動の一環として実施したものである。このシンポジウムは、学生へのアンケート調査の結果を基に議論を深めて、教官の間に、教育の現状と在るべき姿についての共通認識を形成し、ファカルティ（教官集団）としての能力の向上を図ろうというものである。2001年～2002年の間に工業化学科、地球工学科、物理工学科、電気電子工学科、建築学科、情報学科の順に開催した。さらにこのシンポジウムの成果の上になって、「工学倫理」の開講、低学年における時間割上の不



都合の解消、基礎科目を重視したカリキュラムへの移行、コース別け・分属時期の変更など、様々な教育改革が工学部レベルおよび各学科レベルでそれぞれ行われた。

大学教育の質の維持・向上には、個々の教官の授業能力の向上も重要であるが、それ以上に機能的集団としてのファカルティの能力向上、特にファカルティ・メンバー間の共通認識の形成とその上に立った整合のとれた教育システムの構築が必須不可欠である。上の活動は、その観点を重視した新しい形のファカルティ・ディベロップメント活動を工夫し、工学部六学科の賛同を得てそれを実施したものである。このような観点からの新しい工夫が評価されて今回の受賞に至ったものと考えられる。本年度から、工学研究科と情報学研究科の桂キャンパスへの移転が開始され、工学部教育については、講義室・実験スペースの確保、教官・TAのスケジュール調整など色々難しい問題が生じている。本委員会としては、今回の受賞をばねとして、教育の質を劣化させることのないようさらに努力していきたい。

(工学部)



寸言

大学改革に期待

中田 一男



私が京都大学に入学した昭和28年は、旧制大学の最後の卒業生と新制大学の最初の卒業生が同時に卒業するという節目の年。それだけに、宇治分校、吉田分校で学んだ教養課程の2年間は、旧制高校時代の学生気分が色濃く残っていた。出席にうるさい語学と体育以外の授業は適当にさぼって、全国各地から集まってきた同世代の優秀な仲間たちと親兄弟以上に深い付き合いができるということに、興奮を覚え、友人の下宿にたむろして、よく食べ、よく飲み、よく談じ合うことに専念していた。また、身体が大きいからと誘われたラグビー部に入部し、毎日、午後3時から2時間程の練習を黙々とこなすことによって、肉体の鍛練と苦しさに耐えること、仲間と協調して働くことの大切さを知った。

京都大学のキャンパスに移った専門課程の2年間は、心機一転、勉強に精を出すことにして、ラグビー部を退部し、米国留学から帰国されたばかりの青山秀夫教授のゼミに参加した。志望者が多く、入ゼミ試験で選ばれた同級生20人はやる気満々で、ヒックス教授の「価値と資本」の原書をもとに、予習に時間をかけ、授業中は活発な議論を闘わせ、これが大学なんだという満足感を味わった。また、先生のお宅の引っ越しを手伝ったことをきっかけに、お宅にお邪魔しては、奥様や4人のお嬢様方と、家族同様に暖かく遇していただいたことも得難い経験だった。

一方、講義形式の授業は総じて活気に乏しく、中には数年間、同じ内容の授業を繰り返していると言われている先生方もおられた。このため、授業に出ていなくても、期末にプリントを購入して試験を受ければ、必要な単位を取得することができた。

しかし、卒業後10年以上経って、ハーバード大学のロースクールに留学したときに、日米の大学の違いを実体験した。ロースクールでは、階段教室で

200人以上出席している講義形式の授業でも、座席はあらかじめ決められていて、教授の手許には座席表があり、授業の途中で何度か教授から質問が投げかけられ、挙手を促し指名することもあれば、いきなり指名することもあり、その時の答え振りが成績評価に反映されるので、教室中に緊張した空気が張りつめていた。そして、次の授業に備えるためには、連日、夜遅くまで勉強せざるを得ず、入学はできても、卒業することはむずかしいと実感した。

日本の大学も、最近では随分と変わりつつある。私は平成4年7月に創設された国立大学財務センターの所長懇談会の座長として、大学改革の一端に参加させていただいた。戦後、大学の規模は拡大したが、予算が伴わず、東大や京大のように歴史の古い大学では、施設の老朽化、狭隘化が目に見え、雨漏りした雨水を窓から外に流しているという、信じられないような状態を目の当たりにした。予算が足りないとか、流用がむずかしいとかの事情があるにせよ、喫緊の雨漏りの補修もできないとは、大学の組織運営の硬直化の象徴のようだった。

その後、大学改革の動きは具体化し、独立行政法人への衣替えを契機に各大学の自主性が尊重される方向に進みつつある。大学の経営運営の巧拙が、年とともに、大きな格差となってでてくるに違いない。また、国際交流も活発になってきており、京大でも外国人の留学生が増加している。私の場合、ハーバード大学への留学は、専門知識の涵養に大きく役立ったが、私の学生時代のような大学では、外国人の留学生が満足してくれるのかどうか疑わしい。是非、大学が専門知識の涵養に役立ち、卒業することがむずかしい大学に変わってほしいと期待している。

(なかた かずお 三井住友海上火災保険(株)顧問
昭和32年経済学部卒)

随想

「やましゅう」の言葉

水垣 渉



定年退官後五年になる。近頃大学の精神史ということを考えるようになった。在職中は大学人でありながら、教育と研究すら精神などという言葉とは無縁のところまで営んでいたように、今では思われる。

このような感想がでてくるようになったのも、肉体と精神を消耗させた大学紛争の余波、入試改革、大学院重点化などの出来事が、ようやく過去として洗い流されるようになったためだろう。

ユニヴァーシティの元の意味である、大学という同業者共同体に属していた以上、わたしの精神史が、京都大学の同業者であった教官、学生、職員との人間関係に最も強く規定されていることは当然である。その最初のページが、教師と同級生との出会いを録していることも、また当然だろう。それらの記憶の中には、わたし個人の出来事にとどまらないものもある。ここで書きたいのは、京都大学の精神史でもあるような一こまでである。

昭和29年、文学部2回生であったわたしは、吉田分校で山本修二先生の英語の授業に出ていた。後になって知ったことだが、先生は三高の名物教授であり、英文学者としてまた演劇批評家として令名あるお方であった。その先生をわたしたちは、おそらく三高以来傳承されてきたに違いない「やましゅう」の名で呼んでいた。当時、学生自治会である同学会の再建と荒神橋事件を経て、学内は騒然としており、わたしのクラスL2は、全学連委員長を出すほど先鋭な学生運動に携わる級友が多くいたので、授業の前に教卓に押しかけて、デモに行くために休講を求めることもたびたびあった。しかし先生は、学生の要求をすべてはねつけられた。

先生が、ハズリットの随筆をわたしたちに読ませられた授業であったと思う。そのとき、「やましゅう」の説明に納得しないで、立ち上がって文法上の解釈について鋭く質問した学生がいた（わたしでは

ない。「やましゅう」とかれとのやり取りは、数回に及んだと思う。ついに先生は、いわれた。言葉どおり記憶していないのはいかにも残念であるが、次のような趣旨であったことは間違いない。「君よりもわたしのほうが英文を長い間読んできている。わたしのほうが正しい。黙って聴きなさい。」このように先生は断言された。但し、「黙って聴きなさい」は、実際にそう発語されたかは確かでないが、先生の気迫にそれが込められていたことは、だれにも明らかであった。

わたしは後に、「やましゅう」の英文学の師厨川白村（くりやがわ・はくそん）が同じことを知っていたことを知った。「やましゅう」の言葉が師の言葉のたんなる受け売りといったものではなかったことは、すでに同じ大学の文学部で学生を教える身になっていたわたしにはすぐに分かった。わたしが「やましゅう」から受けたことは「やましゅう」が師から受けたことであり、わたしはこの傳承と傳統の中で育てられてきたのだと思ったからである。「やましゅう」の口から発せられたこの言葉は、個人の權威への盲従を要求するものではない。それは師を継ぐとともに、師を超えることを求めている。先生は、「かく言いうるものになって後進に対しなさい」、「教師たるものはかく言わねばならない」ということを教えられたのである。人文科学の教育には、このような学問的傳統への敬意と精神の傳統がどこかになければならない。

わたしは授業でいつかこう言おうと思ってきたが、ついにその機会に出合わなかった。わたしは「やましゅう」の落第生であり、京都大学の精神的傳統の最良の部分の一つとわたしが思うものを、傳承できなかったことを恥じる。

（みずがき わたる 元文学部教授、平成10年退官、専門はキリスト教学、古代キリスト教思想）

洛書

吉田から桂へ

大瀧 幸一郎

京都帝国大学が設置され、法科大学・医科大学・文科大学とともに理工科大学が開設されたのは明治30年(1897年)のことで、同年、理工科大学に土木工学科と機械工学科が新設され、つづいて翌年に、数学科、物理学科、純正化学科、製造化学科、電気工学科、採鉱冶金学科が増設された。その後大正3年(1914年)に理科大学と工科大学に分かれ、大正8年(1919年)に現在の理学部と工学部となった。平成10年(1998年)、吉田の地に開設以来100年の歴史を経て工学研究科と情報学研究科の桂キャンパスへの移転が決定された。

移転の先陣を切って化学系6専攻が6月末から8月末にかけて、さらに電気系専攻が9月に移転を完了した。そして10月1日から教職員ならびに学生あわせて約1000名が新しいセメスターを桂キャンパスで迎えた。来年には建築系が、平成18年には地球系が、そしてその後物理系、最後に情報学研究科と移転が続き、平成20年には完了する予定である。

桂キャンパスでの生活をはじめて2ヶ月余り、とまどいの中での新しい出発であった。今思いつくままに現状を述べてみたい。とにかく、まだまだ問題点が多い。まず第一は食事の問題である。キャンパスの周辺にはコンビニもスーパーもなく食堂もまだ設置されていない。生協が飯店舗をもうけ、吉田キャンパスから弁当等を運んでくれているのだが、昼夜とも生協弁当では学生諸君がいかにもかわいそうである。ほとんどすべての研究室で冷蔵庫、電子レンジ、炊飯器などを置き、便宜をはかっている。冷凍食品を持ち込み頑張っている者もいるが、吉田キャンパスの生協食堂や百万遍界隈の食堂街が懐かしい。パン屋と小さなレストランが11月上旬にオープンする予定であり、ゆっくり食事ができる本格的な食堂を備えた福利厚生施設の完成にはあと1年半ほど要するので、それまで全員無事に何とか生き延びたいものである。銀行や郵便局が近くにないのも大きな問題である。文房具屋、本屋その他全てがす



ぐ近くにある吉田地区の有り難さがしみじみとわかる。

ただ桂キャンパスへの足については予想したよりも便利である。関係の先生ならびに事務方のご尽力により、市バス、京都交通のバスがよく対応してくれている。昼の時間帯では運が悪ければ30分程バスを待たねばならない事もあるが、朝、夕には10~15分間隔で阪急桂駅-京都大学桂キャンパス間をバスが走っている。けれどもバスの本数について言えば、移転の進行に伴い、順次増える事を期待している。桂キャンパスから吉田キャンパスへの移動にはバス-電車-バスという乗り継ぎで1時間と少々必要である。10月からシャトルバスが走れば45~50分となるが、これは交通渋滞に巻き込まれなければの話である。桂キャンパスから桂駅への最終バスの発車時刻は11時01分である。吉田キャンパスの時のように夜中何時になっても自転車で下宿へ帰れるという状況ではないが、まずまずである。とはいっても毎晩数名の学生が大学に泊まっているようではあるが。なお、大半の学生がすでに下宿を吉田キャンパス周辺から桂地区へ移している。あとひとつ学生諸君にとって身体を動かす場所がないのも気になる。予想以上に自転車で通学する学生が多く(200人近い)、彼等は通学時の運動で充分かもしれないとしても、思い切り体を動かせる施設の設置が望まれる。

この他にも解決されなければならない問題点はあるが、キャンパスでの研究環境はすばらしい。薬品の臭いも無く、快適な空間と言える。多くの学生諸君には下宿の引越し等で経済的に余分な負担をかけた事と思うが、この新しい研究環境は今までのものと比べようもなく近代的なものであり、納得していただけるものと確信する。

予定されているすべての移転が完了し、落ち着いた風情でこの地の風景の一部になるまでには相当の年月が必要だろうが、足下からしっかりとこの桂キャンパスの地を踏みかためていきたいものである。(おおしま こういちろう 大学院工学研究科教授 専門は有機反応化学)

話題

国立七大学総合体育大会追い上げ実らず惜しくも2位

第42回国立七大学総合体育大会が本年7月19日（土）の開会式を挟み、昨年12月7日（土）の「アイスホッケー」を皮切りに8月12日（火）の閉会式まで、31競技種目にわたり名古屋大学の主管で開催された。

本学は、昨年4連覇を目指し臨んだ41回大会で悔

しくも3位に終わり、その雪辱に臨んだ本大会ではあったが、前半戦で予想外の苦戦を強いられ、後半戦は実力を出したものの、追い上げが実らず惜しくも2位に終わった。

なお、本大会の成績結果は、次のとおりである。

(最終成績)

	北海道大学		東北大学		東京大学		名古屋大学		京都大学		大阪大学		九州大学		
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
アイスホッケー	①	10	②	8	③	6	⑤	3	⑦	1	⑥	2	④	4	
スキー	-	-	-	-	④	2	③	3	②	4	①	6	⑤	1	
航空	-	-	②	6	⑤	2	①	8	④	3	③	4	⑥	1	
馬術	②	6	⑥	1	③	4	①	8	④	3	-	-	⑤	2	
柔道	③	5	①	10	⑥	1.5	⑤	3	⑥	1.5	③	5	②	8	
少林寺拳法	⑦	1	⑥	2	④	4	③	6	②	8	①	10	⑤	3	
ヨット	②	8	③	6	⑥	2	⑦	1	⑤	3	④	4	①	10	
空手道	⑦	1	②	8	①	10	③	6	④	4	⑤	3	⑥	2	
剣道	男子	⑤	3	⑥	2	③	6	②	8	①	10	④	4	⑦	1
	女子	⑤	3	⑦	1	⑥	2	④	4	③	6	②	8	①	10
硬式テニス	男子	⑦	1	②	8	④	4	①	10	③	6	⑤	3	⑥	2
	女子	⑤	3	③	6	⑦	1	②	8	①	10	④	4	⑥	2
水泳		①	10	⑦	1	⑤	2.5	②	8	④	4	③	6	⑤	2.5
バスケットボール	男子	⑤	3	④	4	⑥	2	③	6	②	8	⑦	1	①	10
	女子	⑥	1	②	6	-	-	①	8	④	3	③	4	⑤	2
アーチェリー		④	4	⑤	3	①	10	⑦	1	③	6	②	8	⑥	2
弓道	男子	②	8	①	10	③	6	④	4	⑥	2	⑤	3	⑦	1
	女子	④	4	②	8	⑥	2	①	10	⑤	3	③	6	⑦	1
陸上競技	男子	⑥	2	⑤	3	④	4	③	6	②	8	①	10	⑦	1
	女子	④	3	③	4	②	6	①	8	⑤	1.5	-	-	⑤	1.5
卓球	男子	⑤	3	⑦	1	③	6	②	8	①	10	④	4	⑥	2
	女子	①	8	④	3	②	6	⑥	1	③	4	-	-	⑤	2
ソフトテニス	男子	②	8	⑤	3	⑦	1	③	6	④	4	①	10	⑥	2
	女子	③	4	⑥	1	-	-	①	8	②	6	⑤	2	④	3
ハンドボール		⑤	3	⑦	1	④	4	①	10	③	6	⑥	2	②	8
バレーボール	男子	③	6	④	4	①	10	⑤	3	⑥	2	②	8	⑦	1
	女子	⑤	3	⑥	2	⑦	1	①	10	④	4	③	6	②	8
体操		④	4	②	8	⑤	3	③	6	①	10	⑥	2	⑦	1
硬式野球		④	4	⑦	1	③	6	②	8	①	10	⑥	2	⑤	3
バドミントン	男子	①	10	②	8	⑦	1	⑤	3	③	6	⑥	2	④	4
	女子	③	6	④	4	⑤	3	①	10	⑥	2	②	8	⑦	1
フェンシング		③	6	①	10	⑥	2	⑤	3	②	8	④	4	⑦	1
ゴルフ		⑥	2	③	6	②	8	①	10	④	4	⑤	3	⑦	1
準硬式野球		⑤	2	④	3	⑥	1	②	6	-	-	①	8	③	4
ラクロス		②	4	⑤	1	①	6	④	2	③	3	-	-	-	-
自動車		④	4	⑤	3	③	6	②	8	⑦	1	⑥	2	①	10
総合		5	153.0	3	156.0	6	141.0	1	221.0	2	175.0	4	154.0	7	118.0

近畿地区国立大学体育大会の結果

神戸大学が当番大学となり開催された第41回近畿地区国立大学体育大会は、5月11日（日）の「ラグビー」から8月30日（火）の「バレーボール」まで、17競技種目において熱戦が展開された。

本学は、「テニス（男子）」「バスケットボール（男

子）」「卓球（男子）」「弓道（男子）」の種目で優勝し、各競技において実力を発揮し総合成績では、男子が優勝、女子は8位であった。

なお、本大会の成績結果は、次のとおりである。

得点表（男子）

種目NO	種目名	大学名													
		滋大	滋医大	京大	京教大	京工大	阪大	大外大	大教大	兵教大	神船大	奈教大	和女大	神大	
1	陸上競技			7			10		4					5	
2	水泳			7			5		10					4	
3	野球	4.5			7	4.5	10								
4	軟式野球			7						5		4		10	
5	テニス			10			4		5					7	
6	ソフトテニス			4.5	4.5		10							7	
7	バスケットボール			10	4		5		7						
8	バレーボール			4.5	7			4.5						10	
9	サッカー	7				5			10					4	
10	ラグビー			4.5			4.5		10					7	
11	卓球	5		10									4	7	
12	バトミントン	4		7					10					5	
13	柔道						4		5				7	10	
14	剣道			4.5			7		4.5					10	
15	体操競技			7			5		10						
16	ハンドボール						4		10				7	5	
17	弓道			10		4				5			7		
得点		20.5	0	93	22.5	13.5	68.5	4.5	85.5	10	0	4	25	91	
順位		7	12	1	6	8	4	10	3	9	12	11	5	2	

得点表（女子）

種目NO	種目名	大学名													
		滋大	滋医大	京大	京教大	京工大	阪大	大外大	大教大	兵教大	神船大	奈教大	奈女大	和女大	神大
1	陸上競技				7			5	10	4					
2	水泳				4		7		10					5	
5	テニス			4	5				10					7	
6	ソフトテニス				7			4.5	10					4.5	
7	バスケットボール			4					10	5		7			
8	バレーボール	4.5			10				7	4.5					
11	卓球								4				7	5	
12	バトミントン				5		7					4		10	
14	剣道			4.5			4.5		10					7	
15	体操競技				7				10					5	
16	ハンドボール				7			4	10	5					
17	弓道	7					10	5						4	
得点		11.5	0	12.5	52	0	28.5	18.5	91	18.5	0	11	7	25.5	32
順位		9	12	8	2	12	4	6	1	6	12	10	11	5	3

総合博物館夏休み学習教室を実施

総合博物館では8月27日（水）から31日（日）にかけて、夏休み学習教室を実施した。好評だった一昨年・昨年に引き続き、小学生からシニアの方々にも理系・文系の内容を楽しく学習できるよう、工夫をこらした7つのプログラムが組まれた。

人気が高く恒例となった「化石展示見学ツアー①②」「三葉虫を調べてみよう」「ロボット実験室」に、今年は「勾玉をつくろうー本物よりうまくできるか

な?」「ストローでつくる強い形」「望遠鏡をつくって見ようー火星大接近!」と題したプログラムに加え、定員合計280名を大幅に越える総数約760名もの応募が集まった。

参加者は苦勞しながら柔らかい石を削って勾玉を作ったり、望遠鏡を組み立てて大接近した火星を観察したりと、体験を通じて学ぶ楽しさに歓声をあげながら、思い思いに各プログラムに取り組んでいた。



日誌 2003.8.1 ~ 8.31

- 8月4日 入学者選抜方法研究委員会
- 11日 オープンキャンパス（12日まで）
- 31日 大学入試センター法科大学院適性試験

訃報

このたび、林^{はやし} 憲一郎^{けんいちろう}名誉教授、中島^{なかじま} 稔^{みのる}名誉教授、富張^{とみはり} 実^{みのる}総務部長、勝村^{かつむらてつ} 哲也^や名誉教授が逝去されました。

ここに、謹んで哀悼の意を表します。

以下に各氏の略歴、業績等を紹介します。

林 憲一郎 名誉教授

林 憲一郎先生は、8月23日逝去された。享年90。先生は、昭和13年京都帝国大学文学部文学科を卒業後、同大学院で学ばれた後、同大学文学部副手、講師、吉田分校助教授、教養部助教授を経て、同39年教授に就任された。同52年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

本学退官後は、昭和52年から同59年まで京都産業大学教授を務められた。

先生の専門はフランス文学で、研究の主題は17世紀フランス古典喜劇の比較文学的研究であり、主として古典主義時代の文学をとりあげた。一方、比較文学研究の帰結として、日本文学・日本文化の欧米への紹介につとめ、国際的に高い評価を得ており、欧米における多くの知識人・研究者人名録には、同人の経歴と業績が紹介されている。また、複数の研

究者とともに20年の歳月を費やして編纂した『最新フランス語大辞典』は、従来の類書が日本人の使用のみを前提としていたのに対して、フランス人にも日本に対してより深くより正確な知識を得るという認識に立ち、国際文化交流と日本に対する認識の改善に大きく寄与した。

先生は、わが国における比較文学研究の開拓者の一人であり、学界での活動は極めて高い評価を受けており、広い国際的視野に立って比較文学の研究を推進され、わが国の文学研究水準の向上と国際化に大きく貢献された。

これら一連の功績により昭和61年4月勲三等旭日章を受けられた。

(大学院人間・環境学研究科)

中島 稔 名誉教授



中島 稔先生は、8月26日逝去された。享年86。

先生は、昭和16年京都帝国大学農学部を卒業、同学部農林化学科助手、助教授を経て同34年教授に就任、農薬化学講座を担当された。昭和56年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、昭和44年12月より同46年12月まで農学部長および評議員として、大学の管理運営に貢献された。

先生は天然物化学ならびに農薬化学の領域で、基礎から応用にわたる幅広い研究を展開された。特に殺虫剤 BHC の化学的研究の過程で発見されたベン

ゼングリコールを出発材料とし、環状糖アルコールおよびアミノ配糖体抗生物質の合成に成功した一連の研究は高く評価され、昭和45年度日本学士院賞の受賞対象となった。殺虫剤の作用機構に関する研究においても大きな業績をあげられ、1980年度アメリカ化学会パーディック・ジャクソン農薬化学研究国際賞を受賞された。

また、日本学術会議会員、日本農芸化学会会長、国際純正・応用化学連合有機化学部会委員等の要職を歴任され、これら一連の功績により平成2年11月勲二等旭日重光章を受けられた。

(大学院農学研究科)

富張 実 総務部長



富張 実総務部長は、9月6日逝去された。享年56。

同氏は、昭和42年4月小山工業高等専門学校に採用され、同47年5月1日文部省初等中等教育局教育研究開発室に転

任となり、大臣官房人事課総務班、同任用班を経て、同56年4月1日同人事課福祉班人事記録係長に昇任。その後、大臣官房人事課審査班審査第一係長、同人事課総務班栄典係長を歴任され、昭和63年4月1日東京学芸大学庶務部人事課長に昇任、平成2年4月1日東北大学庶務部人事課長を経て、同5年4月1日文部省大臣官房人事課専門官に配置換、合わせて大臣官房人事課栄典官を命ぜられた。平成8年4月

1日大臣官房人事課福祉班主査に配置換の後、同9年7月1日岐阜大学庶務部長に昇任、同11年4月1日筑波大学学生部長を経て、同13年1月6日京都大学総務部長に就任された。

同氏は、36年余の永きにわたり、教育行政において、その豊かな見識と経験、卓越した指導力と行動力をもって精力的に活躍し、多くの困難な問題に取り組み、永年にわたり我が国の文教行政の発展、大学の管理・運営に多大なる貢献をされ、その職責を全うされた。

これら一連の功績により平成15年9月勲五等双光旭日章を受けられた。

(総務部)

勝村 哲也 名誉教授



勝村哲也先生は、9月10日逝去された。享年66。

先生は、昭和38年神戸大学文学部史学科を卒業、京都大学大学院文学研究科修士課程修了後、仏教大学文学部専任

講師、同助教授、京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センター助教授を経て平成10年同研究所教授に就任、同12年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。その後、鳥根県立大学教授に就任され、同メディアセンター長として活躍しておられた。

先生は、中国中世史研究に従事される一方、中国古典文献学にも深い関心を示された。とりわけ類書

の成立過程について優れた論考を数多く発表された。先生が編纂された『京都大学人文科学研究所漢籍目録』も内外の高い評価を受けている。また『東洋学文献類目』のデータベース化を実現することで、コンピュータによる漢字処理の進展に大きく寄与された。さらに中国、韓国、アメリカなど、環太平洋諸国が参加する漢字情報ネットワーク構想を具体化するために精力的に活動され、各国の研究者から高い信頼を寄せられた。著書には『康熙字典文字集覧』『漢字典』などがあり、いずれも漢字フォントの開発において画期的な意義を有するものである。各種漢籍のデータベース化にも尽力された。

(人文科学研究所)

公開講座

エネルギー科学研究科公開講座
「エネルギー科学の新展開」～新エネルギーから宇宙へ～

1. 日 時：11月15日（土） 13：00～17：00
2. 場 所：工学部2号館201講義室
3. 演題及び講師：エネルギー科学とプラズマ
代替燃料を用いたクリーンエンジンの研究開発
“宇宙環境利用実験”の面白さと難しさ
4. 受 講 料：5,200円
5. 申 込 締 切：11月7日（金）
6. 問い合わせ先：工学部等学術協力課研究協力掛
TEL 753-5011
詳細はエネルギー科学研究科ホームページをご覧ください。
<http://www.energy.kyoto-u.ac.jp/>

助教授 中村 祐司
教 授 石山 拓二
助教授 福中 康博

京都大学21世紀 COE 「物理学の多様性と普遍性の探求拠点」
第1回 市民講座「宇宙の神秘に迫る ～宇宙科学最前線～」

京都大学の宇宙・天文グループの最新の研究成果を中心に、関連する世界の宇宙・天文研究の最先端を、一般向け（中高校生以上）にわかりやすく解説します。ぜひご参加ください。

1. 日 時：12月6日（土） 13：00～17：00
2. 場 所：京都市青少年科学センター
3. 講演プログラム：特集テーマ「目で見えない宇宙の探求」
X線で見えた宇宙
赤外線でさぐる宇宙の始め
重力波天文学
4. 対 象：中高校生以上
5. 受 講 料：無料
6. 定 員：220名（申込多数の場合は、申込ハガキ先着順）
7. 申 込 方 法：往復ハガキに、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を記入の上、下記にお送りください。
〒606-8502
京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科 物理学第二教室内
京都大学21世紀 COE 市民講座「宇宙の神秘に迫る」係
TEL 753-3758

理学研究科教授 小山 勝二
理学研究科教授 舞原 俊憲
理学研究科教授 中村 卓史

8. 申込締切：12月1日（月）必着 定員オーバーの節はご了承ください。
9. 交通：会場の京都市青少年科学センターへは公共交通機関でお越しください。
会場までの地図については <http://www.edu.city.kyoto.jp/science/>
10. 主催：京都大学21世紀 COE 「物理学の多様性と普遍性の探求拠点」
11. 後援：京都市教育委員会，京都新聞社
詳細はホームページをご覧ください。
<http://physics.coe21.kyoto-u.ac.jp/>

お知らせ

農学部創立80周年記念シンポジウム 「農業生産と食の未来」

1. 日時：11月15日（土） 13：00～17：30
2. 場所：国立京都国際会館 Room A
3. プログラム：挨拶 研究科長 高橋 強
基調講演「21世紀の農学に期待するもの」 日経BPバイオセンター長 宮田 満
「品種改良と農業生産」 教授 谷坂 隆俊
「食の機能性と安全性」 教授 小川 正
「食の安全性とリスクマネジメント」 教授 新山 陽子
パネルディスカッション
4. 参加費用：無料
5. 問い合わせ先：農学部等総務課庶務掛
TEL 753-6004
詳細はホームページをご覧ください。
http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/kais_jap/80symposium/sympo2.PDF

第6回情報学シンポジウム 「世界のセンターオブエクセレンスをめざして」

1. 日 時：12月1日（月）10：30～17：00

2. 場 所：工学部8号館3階大会議室

3. プログラム：

挨拶 総長 長尾 真

セッション1

知識情報社会基盤のための情報学に向けて 教授 上林 彌彦

外的情報と内部モデルの動的インタラクション 教授 乾 敏郎

セッション2

異文化コラボレーション：実験と課題 教授 石田 亨

無線通信のフロンティアをめざして－暮らしの中にとけこむ無線通信技術－

教授 吉田 進

高度情報化社会を支える集積回路－情報処理デバイスの回路・システム化技術－

教授 小野寺秀俊

セッション3

サンプル値制御理論と信号処理 教授 山本 裕

制御におけるモデルと学習 教授 杉江 俊治

知識社会の基盤としてのアルゴリズム研究 教授 茨木 俊秀

4. 定 員：160名（先着順）

5. 参 加 費 用：無料（申込不要）

6. 問い合わせ先：〒606-8501 京都市左京区吉田本町

大学院情報学研究科 福嶋雅夫

TEL 753-5519

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.i.kyoto-u.ac.jp/>

総合博物館展示会のご案内

平成15年秋季企画展

「21世紀京大の農学—食と生命そして環境—」

農学は生物学を中心とした応用学問です。農業、林業、水産業、食品、水利、経済と学問領域は広い範囲にわたっています。今回の秋季企画展では、「21世紀京大の農学—食と生命そして環境—」と題して、京都大学において80年の歴史を持つ農学の最前線の研究成果を、わかりやすくおめにかけます。

会 期：10月1日（水）～12月27日（土）

会 場：総合博物館 第2企画展示室（南棟2F）



特別展「ブレイクと出会った日本、その喜ばしき日々」

国際ブレイク学会「ブレイクと東洋」関連資料展示

大正初期、イギリス・ロマン派の詩人・画家・銅版画師ウィリアム・ブレイク（William Blake 1757－1827）が、文芸雑誌『白樺』誌上で、日本で初めて本格的に紹介された。本展は日本におけるブレイクの初期の移入の状況を、主に文献資料によって紹介する。『白樺』主催のブレイク展で展示された複製画や、当時のブレイク・コレクターの所蔵品を紹介することで、当時の日本人が実際眼にしたブレイクを再びここに蘇らせる。

展示構成：

I. ブレイクと出会った日本

- I-1 明治の文豪とブレイク
- I-2 柳 宗悦と『白樺』によるブレイクの紹介
- I-3 『白樺』主催のブレイク展
- I-4 ブレイク受容の展開とブレイク100年忌

II. 日本の「ブレイキアン」

- II-1 岸田劉生と『白樺』派の美術家
- II-2 村上華岳と国画創作協会
- II-3 ブレイク蒐集家・長崎太郎

会 期：11月27日（木）～12月27日（土）

主 催：総合博物館、国際ブレイク学会組織委員会

会 場：総合博物館 第1企画展示室（本館2F）

【総合博物館入館案内】

開館時間：午前9時30分～午後4時30分（入館は午後4時まで）

休 館 日：月・火曜日

平成15年度附属図書館公開企画展のご案内

附属図書館では、今年も以下の要領で公開企画展を開催します。今年は、「和算の時代－日本人の数学力をたどる－」をテーマに、本学理学研究科教授上野健爾氏の指導と助言を得て準備しています。

和算は、わが国で江戸時代に独特の発展をした数学で、日本人の数処理能力の向上に大きく貢献したとされています。明治時代になって、学校で教える数学は西洋の数学になりましたが、西洋の数学の受容がスムーズに進んだのは、和算で培われた数処理能力の結果とみられています。多数のご来観をお待ちしています。

なお、詳細は附属図書館のホームページに掲載しています。

(<http://ddb.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp/tenjikai/2003/wasan.html>)

テ ー マ：和算の時代－日本人の数学力をたどる－

内 容：① 「数」のある風景 ④ ひろがる和算の世界
② 数学力の原点－32の塵劫記 ⑤ 和算から洋算へ－佐藤文庫
③ 和算の誕生と進展

開 催 期 間：11月8日（土）～12月7日（日）

（休館日：11/10（月）・17（月）・25（火）、12/1（月）の4日間）

開 催 会 場：思文閣美術館（京都市左京区田中関田町2-7）

入 館 料：大学生以上（400円）

高校生（300円）

中学生以下（無料）

主 催：附属図書館・思文閣美術館

後 援：朝日新聞社

指導と助言：上野 健爾（理学研究科教授）

記念講演会：

第1回

日 時：11月8日（土） 午後2時～4時

場 所：思文閣美術館

*先着120名までとさせていただきます。

①「面積って何だろう」（中高生・一般向） 上野健爾

②「幕末の数学者 小野友五郎」 鳴海 風（小説家）

第2回

日 時：11月13日（木） 午後1時30分～3時30分

場 所：附属図書館 AV ホール

「和算から洋算へ」（大学生・一般向） 上野健爾



本部構内～桂キャンパス間連絡バスの運行始まる

桂キャンパスへの工学研究科化学系及び電気系専攻の移転が完了し、講義が開始されたことに合わせて吉田キャンパスと桂キャンパスを結ぶ連絡バスの運行が10月1日（水）から始まった。
バスの利用については以下のとおりとなっている。



1. 乗車できる者の範囲
 - ・教官，事務職員，学部学生，大学院生等とする。
(通勤・通学に使用することは認めない。)
2. 運行ルート
本部構内～東大路通～丸太町通～川端通～五条通～国道9号線～桂構内
* 本部・桂構内の直行便とする。(途中の停車はしない。)
3. この運行時間に関する問い合わせ先
事務局 経理部 契約課 契約管理掛
電話 075-753-2133



4. 運行時間表
発着場所
本部構内 (カンフォーラ前)
↑ ↓
桂 構内 (Aクラスター・ロータリー) (所要時間 約55分)
↑ ↓
桂 構内 (Cクラスター前駐車場)

(本部→) 桂構内行

(桂→) 本部構内行

停車場所	桂 構 内 行						
	第1便	第2便	第3便	第4便	第5便	第6便	第7便
本部構内	9:15	10:35	12:30	13:30	14:50	16:35	18:20
桂 構内	10:10	11:30	13:25	14:25	15:45	17:30	19:15

停車場所	本 部 構 内 行					
	第1便	第2便	第3便	第4便	第5便	第6便
桂 構内	9:15	11:25	12:15	13:45	15:15	16:45
本部構内	10:10	12:20	13:10	14:40	16:10	17:40

(参考)

【本部～宇治構内間連絡バス運行表】

- 停車場所発着場所
本部構内 (正門インフォメーションセンター前)
↑ ↓ (所要時間 約50分)
宇治構内 (噴水前)

(本部→) 宇治構内行

(宇治→) 本部構内行

停車場所	宇 治 構 内 行			
	第1便	第2便	第3便	第4便
本部構内	9:30	11:00	13:00	15:00
近 衛	9:31	11:01	13:01	15:01
仁王門	9:37	11:07	13:07	15:07
山 科	9:52	11:22	13:22	15:22
六地蔵	10:12	11:42	13:42	15:42
宇治構内	10:20	11:50	13:50	15:50

停車場所	本 部 構 内 行			
	第1便	第2便	第3便	第4便
宇治構内	11:00	13:00	14:00	16:00
六地蔵	11:08	13:08	14:08	16:08
山 科	11:28	13:28	14:28	16:28
仁王門	11:43	13:43	14:43	16:43
近 衛	11:49	13:49	14:49	16:49
本部構内	11:50	13:50	14:50	16:50

昼休みの「窓口」オープンについて

10月1日（水）から、各学部等の窓口はもとより、学生部、共通教育推進部及び研究協力部留学生課において、昼休み中（正午から午後1時まで）も窓口を開けることとなりました。

このことについては、平成15年3月発行の「京都大学自己点検評価報告書Ⅳ（学生支援・学生サービス）2002」において、今後必要なサービスの一つとして窓口受付時間の延長が挙げられています。また、国立大学法人化を来年に控え、より一層の学生サービスの向上を図る観点から、昼休みの窓口オープンを実施することとなりました。

（学生部）



編集後記

“京大広報”の編集委員を引き受けその活動の仲間入りをして、はや、半年以上になる。この間、3つの号外およびNo. 578からNo. 582までの号が発刊されている。何しろ、大学に奉職して30年になるというのに、広報をまともに読んだことのない人種である。当初はこの手の活動に対する自覚のないまま戸惑うことが多かったが、月1回は開かれる委員会での作業を通して広報の仕事の大切さが体で分かるようになった。編集委員の任期は2年ということである。国立大学法人化の直前と直後の重要かつ微妙な時期にあたる。この広報誌の役割として、広い視野に立った正しい情報を伝え、学内対話をより一層活発化させることが求められていると思う。この30年の怠慢に対する反省も込めて、微力ながら、役目を果たしたい。

（五十棲記）